

2 年 次 生

声優学科

学期	科目名	担当講師
春	言葉の基礎・応用編Ⅰ	滝沢 ロコ

科目概要

1年次の「言葉の基礎」をもとに、更に実践に近い形で、美しい日本語を身に着けます。実際に現場で使われているアクセントや法則を学び、自在に使えるよう習得。滑舌の良い、堪能な朗読術台詞術への道をつなげます。「言葉の基礎」のテキスト、適宜、サブテキストを使用します。

到達目標

- ・複合子音の正しい発音
- ・アクセント、母音の無声化等の法則の徹底習得
- ・やや長い文の基本的音読の完成

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	滑舌よい喋りとは	1年次の復習と滑舌のチェック、置語集早口言葉をペンを咥えて発音練習します。
第2回	口唇トレーニング 複合子音の練習題その1「kj」	顔、首、舌、唇等の筋力をアップを進め、チェックします。 サブテキスト「思い出のサダコ」
第3回	口唇トレーニング 複合子音の練習題その2「gj」	より高度な発音を正しくできているかをみます。 サブテキスト「思い出のサダコ」
第4回	口唇トレーニング 複合子音の練習題その3「qj」	更に美しい発音と正しいアクセントを追求します。 サブテキスト「思い出のサダコ」
第5回	口唇トレーニング 複合子音の練習題その4「ji」の拗音	更に美しい発音とアクセントチェック。 サブテキスト「思い出のサダコ」
第6回	口唇トレーニング 複合子音の練習題その5「dz, d3」	複合子音の発音、練習題の法則チェックと読み。 サブテキスト「思い出のサダコ」
第7回	総括テスト	今までやった事が理解でき、自由に使えるかの確認。

クォーター末試験評価方法

出席点50%：平常点30%：試験20%
日常的な訓練が出来ているか、基礎知識が定着してきたかをみます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1Qの復習と確認	1Q末筆記テストの答え合わせ。
第2回	複合子音練習題とサブテキストを学ぶ その1「 d3 」の拗音	複合子音の練習を続けつつ、サブテキストの読みを行います。 「思い出のサダコ」
第3回	複合子音練習題とサブテキストを学ぶ その2「 d3 」の拗音	練習題の追及を行いつつ通常の分の読みの基礎を習得します。
第4回	複合子音練習題とサブテキストを学ぶ その3「 t s 」の拗音	基礎力の繰り返し確認。
第5回	複合子音練習題とサブテキストを学ぶ その4「 n j 」	文章に慣れ、内容を理解して文節を作ります。
第6回	複合子音練習題とサブテキストを学ぶ その5「 c j 」	長文を自在に基礎チェックできるようにします。
第7回	複合子音練習題とサブテキストを学ぶ その6「 p j 」	練習題と長文の両方を自在に読めるようにします。
第8回	総括テスト	春学期に学んだことが理解できているかの確認。

学期末試験評価方法

出席点50%：平常点30%：Q末試験20%
日常的に長文の音読練習が出来ているかを確認し、さらに、正しいアクセントと美しい日本語の発音とともに、自分のものにできているかをみます。
内容、進度は状況によって変更することがあります。

声優学科

学期	科目名	担当講師
秋	言葉の基礎・応用編Ⅱ	滝沢 ロコ

科目概要

前期の成果を踏まえて、更に日常的に練習を重ねていかれるように、より高度な文章の基礎的な読みを繰り返し習得します。プロにとって、最も必要な文章、台詞等の読みの基礎を確実にし、卒業後に生かせるようにします。適宜、サブテキストを使用します。

到達目標

- ・すべての音の正しい発音の習得
- ・長文の正しい法則による音読の完成
- ・美しく正しい日本語を使って文が読めるようになる

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	前期の復習と確認 長文の音読	答え合わせ サブテキスト「防災気象情報」
第2回	複合子音練習と解説文を読む その1「 b j 」	引き続き複合子音練習題を行います。 サブテキスト「防災気象情報」
第3回	複合子音練習と解説文を読む その2「 F 」の拗音	正しく伝わる基礎的な読みを理解し実習します。 サブテキスト「防災気象情報」
第4回	複合子音練習と解説文を読む その3「 F j 」	日常使わない用語を多く含んだ文の読みを実習します。 サブテキスト「兄貴のような心持、菊池寛氏の印象 芥川龍之介文」
第5回	複合子音練習と解説文を読む その4「 m j 」	難しい文章を軽く読める力を付けます。 サブテキスト「兄貴のような心持、菊池寛氏の印象 芥川龍之介文」
第6回	リスニング・スピーキングテスト	法則が聞き取れるか、正しく話せるかをチェックします。
第7回	総括テスト	実力の確認

クォーター末試験評価方法

出席点50%：平常点30%：試験20%
長文を扱う力が付いているか、内容の理解が素早くできるようになっているか、基礎力は身についたかをチェックします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	3Qの復習と確認 複合子音練習	テストの答え合わせ 複合子音練習題を進め、合わせてサブテキストを練習します。
第2回	複合子音練習と長文を読む その1「 r j 」	引き続き複合子音練習題を行います。サブテキストを練習します。
第3回	複合子音練習と長文を読む その2「 w 」の拗音	長文を正しいアクセントと法則で音読できる様実習します。 サブテキスト「青い目のメリーちゃん」
第4回	物語文での応用その1	自在に正しいアクセントや法則を使って表現できているかをみます。 サブテキスト「青い目のメリーちゃん」
第5回	物語文での応用その2	多様な感情を込めた際にも、法則通り読めているかをみます。 サブテキスト「青い目のメリーちゃん」
第6回	物語文での応用その3	これまでの授業で学んだ事をまとめて文を読んでみます。 サブテキスト「青い目のメリーちゃん」
第7回	リスニング・スピーキングテスト	聞いたアクセントをすぐに直せるか、使って台詞を言えるかをチェックします。
第8回	総括	総合チェック... 自作の文を読みます。

学期末試験評価方法

出席点50%：平常点30%：試験20%
プロとして言葉を使って仕事をするにふさわしい実力が付いているか、今後伸びていく可能性があるかをチェックします。更に、卒業後にも学び続けられるよう、日常の自主練の仕方が身についているかを合わせてチェックします。内容、進度は状況によって変更することがあります。

声優学科

学期	科目名	担当講師
春	朗読Ⅲ	伊藤惣一

科目概要

朗読とは何をするのかを考え、声のことばとして成り立たせる術を訓練していきます。

到達目標

とりあえずは、プロミネンス(文中の語句を強く発音するなどして際立たせること)を確かに、何が書かれてあるかを聞き手に届ける力を持つことです。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	前年度の点検	プロミネンスなど基本的なことについて点検・復習します。
第2回	「いろいろ売りせりふ」	解説と口演。以後毎回稽古をいれていきます。
第3回	物語朗読1	「淋しいおさかな」(別役実)を予定しています。まず通して読みを確認します。
第4回	物語朗読2	少しずつ読み進めて課題を出していきます。
第5回	物語朗読3	文字ではなく、書かれてあることがらを読んでかかせることを訓練します。
第6回	物語朗読4	読んで聞かせる・伝える・とどけることをくり返し稽古します。
第7回	成果確認	テキストによる試験

クォーター末試験評価方法

意欲とダメを受けとる能力などを含め、毎回の出来不出来80%試験20%の割合で評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	物語朗読1	「窓の中」(谷川俊太郎)を予定。通して読みを確認します。
第2回	物語朗読2	地の文と会話文へどう対するか、訓練していきます。
第3回	物語朗読3	会話のニュアンス、リズム、間について訓練していきます。
第4回	物語朗読4	細かい稽古を繰り返します。
第5回	成果確認	テキストによる試験
第6回	遊びの文章朗読1	マザーグース「これはジャックのたてたいえ」を予定。
第7回	遊びの文章朗読2	ことばと遊ぶこと、おもしろく読むことを求めて稽古します。
第8回	成果確認	テキストによる試験

学期末試験評価方法

意欲とダメを受けとる能力などを含め、毎回の出来不出来80%試験20%の割合で評価します。

声優学科

学期	科目名	担当講師
秋	朗読Ⅳ	伊藤惣一

科目概要

文学作品を朗読する中で、地の文と会話文を演技の中に収めていきます。物語や詩を聞かせ、自分を表現するということを深めていきます。——「物言う」ことを求めて。

到達目標

・事柄の展開をとらえたか
 ・ニュアンスは適切か
 ・私が感じたものは何か
 ⇒「私はこう読む」という朗読を聞かせられれば良いなと考えます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	物語朗読1	「きよこ—東京」(重松清)を予定。通して読みを確認します。
第2回	物語朗読2	地の文—主人公の主観と客観を考えて読みすすめます。事柄の展開として物語をとらえているか。
第3回	物語朗読3	読点と間、ブレスを意識してとらえます。
第4回	物語朗読4	他へ聞かせる・とどける意識を持つことを重ねて求めます。私ができることばをとらえているか。
第5回	物語朗読5	地の文を私はどう読むか—問題とします。登場人物をとらえているか。
第6回	物語朗読6	色々な課題の上に、くり返し稽古します。私の口から事柄が発せられているか。
第7回	成果確認	テキストによる試験

クォーター末試験評価方法

意欲とダメを受けとる能力などを含め、毎回の出来不出来80%試験20%の割合で評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	詩とエッセイ1	「詩の中の風景」(石垣りん)を予定。全文通して読みを確認します。
第2回	詩とエッセイ2	詩と随想文を読み解きながら、声にしていきます。詩を読む声を出せるか。
第3回	詩とエッセイ3	できるだけ多くの文章に当たっていきます。ことばと私の関係を感じられるか。
第4回	散文詩朗読1	「あのときかもしれない」(長田弘)を予定。全文を通して確認します。私との関係でことばをとらえるということ。
第5回	散文詩朗読2	文の単語・ことばを私のものにできるはず—きちっと当たっていきます。
第6回	散文詩朗読3	くり返し稽古します。他へ届ける意識を持てるか。
第7回	成果の確認	テキストによる試験
第8回	2年間の成果確認	各自それぞれが作品を選び、朗読します。

学期末試験評価方法

毎回の出来不出来70%試験30%の割合。何を選んだかも含めて評価します。

声優学科

学期	科目名	担当講師
春	上演Ⅲ	伍堂哲也

科目概要

舞台での演技のための体作り。鑑賞に耐える姿勢や動作、発声や発音ばかりでなく、読んで理解し表現する能力を自ら発見します。歌って踊れるエンターテイメントを目指し、歌、ダンスの授業と連携を持って、堂々とステージに立てることを目的とした作品作りをします。

到達目標

- ・積極的、意欲的に取り組みましたか。
- ・実践から学び、実際にやってみます。
- ・自分の個性を主張し、楽しんで自分を表現できましたか。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	演技の相対性1	役作りについて
第2回	身体コントロールカ1 演技ウォームアップ	演技ウォームアップ方法を実際にやりながら習得します。
第3回	身体コントロールカ2 声について	声の方向性、距離、明暗、音域、etc
第4回	身体コントロールカ3 意識について	意識の方向性、どこに向けて意識を伝えたいか、確認し実践から習得します。
第5回	身体コントロールカ4 台詞	台詞を言うことで、様々なものを学びます。
第6回	身体コントロールカ5 対話	相手との実践の中で対話を成立させます。
第7回	1クォーター総括	各自クリアすべき目標をたてます。個別アドバイス。自主練習方法

クォーター末試験評価方法

出席率、観察力、理解力、集中力、受講態度

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	台本を読む1	読み合わせ 実際に台本を読みます。
第2回	台本を読む2	役にアプローチする実験 自分がその役になるとは…
第3回	台本を読む3	役にアプローチする実験前回に引き続き役へのチャレンジで様々な事を習得します。
第4回	台本を読む4	役を掘り下げる読み方 役を追求し分析しながら、自分の表現とつなげていきます。
第5回	台本を読む5	キャストイング準備 自分を知り、役と自分とをすり合わせます。
第6回	役をつかむ1	キャストイング準備 さらなる追及をします。
第7回	役をつかむ2	キャストイング決定
第8回	2クォーター総括	チーム演技発表。個別アドバイス。自主練習の改良点

学期末試験評価方法

積極性と出席率60% 技術修得度 40%

声優学科

学期	科目名	担当講師
秋	上演Ⅳ	伍堂哲也

科目概要

役は一人で作ることには出来ないし、劇は一人ひとりの「協力」の産物である。そのことを理解するために一本の芝居を作り上げることにチャレンジする。

到達目標

- ・積極的に意欲的に取り組みましたか。
- ・相手との交流を含めての役作りを深め、自分の殻を破りましょう。
- ・伸び伸びと上演できましたか。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	卒業発表稽古、腕試しNo.1	卒公台本本読み 卒業公演に向けての稽古を進めていきます。
第2回	卒業発表稽古、腕試しNo.2	卒公台本本読み 様々なことを想定し腕試しを進めます。
第3回	卒業発表稽古3	卒公台本本読み 状況に応じて、稽古を進めていきます。
第4回	卒業発表稽古4	立ち稽古 実際に動く中で、発見していきます。
第5回	卒業発表稽古5	立ち稽古 自分の役がその場で生きるように追求します。
第6回	卒業発表稽古6	立ち稽古 更なる追求を勧めます。
第7回	卒業発表稽古7	立ち稽古、総括

クォーター末試験評価方法

実行力 20% 技術修得度 40% 出席率40%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	卒業発表稽古8、臨機応変1	立ち稽古、歌、ダンスをまじえて動いてみます。
第2回	卒業発表稽古9	立ち稽古、歌、ダンスの表現も大切に
第3回	卒業発表稽古10	立ち稽古、台詞から歌へのスムーズな流れを
第4回	卒業発表稽古11	通し稽古、総合的に創っていきます。
第5回	卒業発表稽古12	通し稽古 スタッフの方々とも詰めていきます。
第6回	卒業発表稽古13	通し稽古 あらゆることを想定して進めます。
第7回	卒業発表稽古14	通し稽古 本番に向けて、さらに追及していきます。
第8回	卒業発表舞台稽古15	課題演目の発表 最終本番に向けて、出来ることをすべてやってみます。

学期末試験評価方法

実行力 20% 技術修得度 40% 出席率40%

声優学科

学期	科目名	担当講師
春	上演Ⅲ	坂本岳大

科目概要

シアターゲームやボディーワークの基礎、開口発声訓練の基礎などをワークショップ形式的な授業の中で「体験」し、全身を使いながらコミュニケーションをとっていくことや、台詞を相手に伝えていくことを勉強していきます。同時に、実際のテキストを使って台詞術・読解力を高めて、演技に結び付けられる事を目指します。

到達目標

個人的な癖を取り除き、オーソドックスな日本語として台詞を喋ることができるようになること。「言葉」でちゃんと相手と交流出来るように、相手の台詞を「聞き」、相手に言葉を「伝える」ことができるようになること。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コミュニケーション	自己紹介から始まり、ゲームを通してコミュニケーションをはかります。
第2回	コミュニケーションの続き	引き続き、沢山のゲームを通して、コミュニケーションの他に自身の五感を使っていくことを「体験」します。
第3回	身体感覚	ボディーワークの基礎を体験して、自身の身体について勉強していきます。
第4回	身体感覚の続き	前回のワークの続き。自身の身体への意識やコントロールすることを学びます。
第5回	台詞	テキストを使い、開口発声や母音について勉強します。
第6回	台詞	引き続きテキストを使い、勉強したことを台詞に反映させていきます。
第7回	台詞とまとめ	1クォーターでの学習したことを、テキストワークに反映させてシーンとしてまとめます。

クォーター末試験評価方法

出席率や遅刻の有無、授業への積極性など、まずは演技の実力よりも「意欲」にウエイトをおきます。その上で、コミュニケーション能力や台詞術の力量で評価していきます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	シーンワーク基礎	テキストを使い、シーンワークの基礎を勉強します。
第2回	シーンワーク基礎続き	シーンワークの基礎になる「言葉」と「交流」について掘り下げていきます。
第3回	シーンワーク	先の2回で学習したことを、実際のシーンで実践してみます。
第4回	シーンワーク続き	前回の続き。小返しの稽古で深めることを目指します。
第5回	エチュード	テキストから一度離れて、「即興」を勉強します。
第6回	エチュード続き	前回の続き。言葉に縛られず「衝動」を感じて動けるようになることを目指します。
第7回	シーンワークまとめ	今季勉強してきたことをシーンの中でまとめてみます。
第8回	卒公候補作読み合わせ	候補作品の読み合わせ読み合わせ兼、キャストイングオーディション

学期末試験評価方法

出席率や授業への意欲、夏休み課題のレポートの内容、授業で学んだ演技に対しての力量を総合的に判断して成績をつけます。

声優学科

学期	科目名	担当講師
秋	上演Ⅳ	坂本岳大

科目概要

年度末に行われる「卒業公演」の上演の為の稽古。稽古と本番上演を通して「作品」を作り上げることを体験していきます。

到達目標

「卒業公演」作品の上演・稽古を通して、これまで勉強してきた台詞術や舞台での立ち振る舞い、交流などの技術・意識を高めていきます。
本番上演をひとつのゴールと設定して、そこに向けて完成度を高めることを目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	読み合わせ	作品全体・自分の役を把握することを目的とします。
第2回	読み合わせ2回目	各場面の目的・シーンの意味などを考え、交流を目的に進めていきます。
第3回	読み合わせ3回目	人物分析を深め、立ち稽古に向けてイメージを膨らませていきます。
第4回	立ち稽古	舞台空間を把握する事を目的として、各場面を当たっていきます。
第5回	立ち稽古2回目	前回の続き。
第6回	立ち稽古3回目	各場面をより具体的に掘り下げつつ、シーンのデッサンを行います。
第7回	立ち稽古4回目	前回続き。

クォーター末試験評価方法

稽古の参加(出席)状況。態度や意識などの平常点に加えて、この時点での演技の進捗状況で判断します。
その他、作品への理解度や、自身の役の演技以外の作品やクラス中内の係仕事などへの貢献度。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	立ち稽古5回目	各場面の掘り下げを行いつつ、シーンをより深めていきます。
第2回	立ち稽古6回目	人物間の交流を深め、シーンの繋がりを意識していける稽古をします。
第3回	立ち稽古7回目	これまでの立ち稽古の総まとめとチェックをします。
第4回	通し稽古	実際に通してみることで現状を把握する事、本番上演に向けて問題点を洗い出します。
第5回	通し稽古2回目	通し稽古の反復で慣れていくこと、各課題の修正を行います。
第6回	通し稽古3回目	各課題の修正を行いつつ、作品をより深めていくことを目指します。
第7回	通し稽古4回目	前日に引き続き、修正を行いつつ更なるレベルアップをはかります。
第8回	通し稽古5回目	最終的な総仕上げ。

学期末試験評価方法

自身の役の演技技術の向上度合いを主としつつ、作品づくりの中で「演技以外」の作業等の成果や意識も評価ポイントとし、年間での成長を総合的に見て評価します。

声優学科

学期	科目名	担当講師
春	ラジオパーソナリティー I	高森浩二

科目概要

ラジオパーソナリティーは文字通りラジオのディスクジョッキー(DJ)です。基本的には音声メディアなので言葉だけで何をどう表現するのか。自分のキャラクターを全面に出して実践してもらいます。

到達目標

大枠はありますが、喋る内容は自分で考え発信しないといけません。事前の準備。それをどういった形で喋るのか。限られた時間の中で自分の伝えたいことを表現することが目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	新番組のパーソナリティー	自分が受け持つラジオ番組。意気込み等を自由に語ってもらいます。
第2回	フォーマットに基づいた進行	簡単なフォーマットに基づき番組を進行します。限られた枠の中で個性を表現します。
第3回	テーマに基づいたフリートーク	与えられたテーマを調べて、自分の思考と言葉で聴衆者に伝えます。
第4回	巷の話題を紹介	パーソナリティーたるもの情報に対してアンテナを張っておかなくてはなりません。気になる話題をピックアップして紹介します。
第5回	映画や本等のカルチャーを語る	自分の好きな映画や本を紹介してください。言葉だけでどのように伝えるか難しいところです。
第6回	音楽の紹介	ラジオ番組で音楽を紹介するのは必須です。情報なども踏まえて自分の言葉でうまく紹介して下さい。
第7回	5分の番組	第一クォーターで学んだことを基に5分間の番組を作って発表します。

クォーター末試験評価方法

出席50% 平常点50%
授業に参加している事。事前の準備と応用力。楽しく喋れて人の心に届いているか等を評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	お題リレー	テーマをリレー方式で与えます。即興のフリートークです。
第2回	リスナーさんからのメール紹介①	番組に届いたリスナーからのメールを楽しく時には真剣に紹介します。聴いている人に寄り添って語る事ができるでしょうか。
第3回	リスナーさんからのメール紹介②	テーマに基づいたメールが届いています。それらをどう捌いていくのか。またメールは学生の皆さんに書いてもらいます。
第4回	テーマに基づいた曲紹介	番組のテーマに基づき選曲をします。どのような意図がありその曲をどう紹介するかセンスが必要です。
第5回	音響・ディレクターに挑戦	番組で流す音楽など自分たちで実践してみます。パーソナリティーとのコミュニケーションが大事になります。
第6回	テーマに基づいた番組制作①	テーマを設けて番組を企画・発表してもらいます。
第7回	テーマに基づいた番組制作②	自分の番組発表もありますが、音響操作などで協力して進行してもらいます。
第8回	5分の番組②	春学期で学んだことを生かした番組づくりをもらいます。

学期末試験評価方法

出席50% 平常点40% 期末試験10% 遅刻欠席がない事。事前準備、進行が出来ているか。楽しく話が出来て聴いている人にも届いているか。などを評価のポイントとします。

声優学科

学期	科目名	担当講師
秋	ラジオパーソナリティーⅡ	高森浩二

科目概要

言葉で伝えることが基本となりますが、最近では動画なども活用した番組も増えています。エンタティナーとしてパーソナリティーを生かした番組を作り発表していきます。

到達目標

実践的な番組作り。聴衆者や視聴者に自分の言葉とキャラクターで楽しい時間を届けることが大切です。また制作側の役割も担いトータルで番組づくりの楽しさを味わっていきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	擬音ジャスチャークイズ	擬音でジャスチャー。言葉での表現力が問われる究極のゲームです。
第2回	カウントダウン番組①	フォーマットに基づきテンポよくカウントダウン番組を進行します。
第3回	カウントダウン番組②	①とは違ったフォーマットでカウントダウン番組を紹介します。自分のカラーも出していきます。
第4回	ゲストトーク①	番組にゲストが来ました。どんな質問でどんな答えを引き出すのか。インタビュー力が必要です。
第5回	ゲストトーク②	進行役と同時にゲスト役にも挑戦してもらい、客観的にラジオパーソナリティーの役目を学んでみます。
第6回	10分番組の進行①	10分のフォーマットを基に番組の進行をします。生CM読みなども取り入れます。
第7回	10分の番組進行②	前回とは違ったフォーマットでの進行です。ゲストなども登場し限られた時間の中での番組進行です。

クォーター末試験評価方法

出席50% 平常点50%
授業に参加している事。事前の準備と応用力。限られた時間の中での番組の進行が評価のポイントになります。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	NEWS原稿	情報番組のNEWS読みをします。パーソナリティーはそれにコメントをつけて紹介します。
第2回	チームに分かれて番組制作①	番組企画から発表までを各チームに分かれて行います。音響操作やディレクターにもチャレンジします。
第3回	チームに分かれて番組制作②	それぞれのチームにテーマを与え、それに基づいた番組作りと発表を行います。
第4回	ディベートトーク	ディベートトークですが、番組形式でエンターテイメント感溢れるトーク展開をしてもらいます。
第5回	電話相談	リスナーからの相談に答えてもらいます。愛を持ってリスナーと向き合えるかがポイントです。
第6回	ワンマンDJ①	機材操作をしながらもラジオパーソナリティーとしての喋りを求めます。あたふたせずに進行できるかポイントです。
第7回	ワンマンDJ②	企画、進行、機材操作までこなすパーソナリティーは貴重な人材ですので、器用にこなしてもらいたいです。
第8回	ラジオ番組最終回	一年を通して学んだことの集大成です。マイクを通して自分の言葉で語りつくします。

学期末試験評価方法

出席50% 平常点40% 期末試験10% 遅刻欠席がない事。事前準備、進行が出来ているか。機材の操作も含めた総合力が身につけていれば尚評価が上がります。パーソナリティーとして楽しく話が出来て聴いている人にも届いているか。などを評価のポイントとします。

声優学科

学期	科目名	担当講師
春	スタジオアクティング I	田原アルノ

科目概要

1. アテレコ実習(外国映画・TVドラマの日本語版吹替え)
2. アフレコ実習(アニメーション映画・TVアニメーションの音声収録)
3. ベストパフォーマンススライブへ向けた古典朗読などの舞台発表を目的とした朗読特訓
4. その他、必要に応じた演技特訓

到達目標

- プロの声優・俳優を目指し、具体的な目標を持って練習を続けることが出来る。
- 想像力を高め、失敗を恐れずにチャレンジすることが出来る。
- スタッフも含め、全体の事を考え、行動することが出来る。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業の概要とアテレコ作品実習1-①	* 科目の目的・心構え・日常すべきことを提示 * 実際にアテレコ実習を行う中で、体感し理解する
第2回	アテレコ作品実習1-②	* テキストへのアプローチの仕方や専門用語・記号等の説明。実習作品を繰り返し練習し個々の課題を認識する
第3回	アテレコ作品実習1-③	* さらに実習作品を練習後、収録し試聴。課題の明確化 * アテレコ作品実習「テスト範囲」の告知
第4回	アフレコ作品実習1-①	* テキストへのアプローチの仕方や専門用語・記号等の説明。実際にアフレコ実習を行う中で、体感し理解する
第5回	アテレコ作品実習1-②	* 吹替えとアニメーションのアフレコの違いを理解し、実習作品を繰り返し練習。個々の課題を認識する
第6回	アフレコ作品実習1-③	* さらに実習作品を練習後、収録し試聴。課題の明確化 * アテレコ作品実習「テスト範囲」の告知
第7回	1Q試験 アテレコ&アフレコ	* 滑舌・アクセント等、言葉の基礎力 * 作品・役の理解度と表現力

クォーター末試験評価方法

- ①出席状況と受講態度で50%:出席数・遅刻・早退数 集中力・意欲等
 - ②クォーター末試験で50%:滑舌・画面チェック度・音声表現等
- * 授業内容は、男女比や進行状況により変更する場合があります。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アテレコ作品実習2-① 凜とした声	* 作品のジャンルを変えて実習。アニメの特徴を知る。 * ベスパ朗読作品の本読み① 凜とした声作りを目指す。
第2回	アテレコ作品実習2-② ベスパ朗読	* 前回到続き実習。様々な役を体験する。 * ベスパ本読み② 発声・滑舌・アクセント等確認
第3回	アテレコ作品実習2-③ ベスパ朗読	* 小テスト。自己の課題を確認する。 * ベスパ本読み③ 発声・滑舌・アクセント等確認
第4回	アフレコ作品実習2-① ベスパ朗読	* 作品のジャンルを変えて実習。様々な役にチャレンジする * ベスパ朗読作品の本読み④ 全体をしっかりと把握する。
第5回	アフレコ作品実習2-② ベスパ朗読	* 想像力を豊かに、キャラクターを掴み表現する。 * ベスパ作品の本読み⑤ 群読・登場人物について
第6回	アフレコ作品実習2-③ ベスパ朗読	* 小テスト。自己の課題を確認する。 * ベスパ 仮キャストで読み合わせ①
第7回	2Q試験のためのリハーサル	* アテレコ、アフレコそれぞれの試験課題のリハーサル * ベスパ 仮キャストで読み合わせ②
第8回	2Q試験 アテレコ、アフレコ	* マイクを通じた音声表現 * ベスパ朗読「キャスト発表」

学期末試験評価方法

- ①出席状況と受講態度で50%:出席数・遅刻・早退数 集中力・意欲等
 - ②クォーター末テストで50%:滑舌・画面チェック度・音声表現等
- * 授業内容は、男女比や進行状況により変更する場合があります。

声優学科

学期	科目名	担当講師
秋	スタジオアクティングⅡ	田原アルノ

科目概要

1. アテレコ実習(外国映画・TVドラマの日本語版吹替え) 多数の作品を体験します。
2. アフレコ実習(アニメーション映画・TVアニメーションの音声収録) 同上
3. その他必要に応じた演技特訓

到達目標

- アテレコ・アフレコ共、どのような作品に出合っても臆することなく挑む事が出来る
- より複雑な状況下での喜怒哀楽の表現が可能になる

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	秋学期の目標と授業内容説明・実習	授業の目的と個々の課題を明確にします。 アテレコ作品3の実習と課題
第2回	アテレコ作品3の実習と各自の課題	アテレコ作品3の実習をする中で各自の課題を明示します。 難解な部分は繰り返し実習します。
第3回	アフレコ作品3の実習と各自の課題	アフレコ作品3の実習。画面チェックを確実に進行。 作品のテーマ、特徴、キャストの性格を正しく理解する。
第4回	アフレコ作品3の実習と各自の課題②	アフレコ作品3の実習を更に深く行い、各自の課題を明示します。 難解な部分は繰り返し実習します。
第5回	アテレコ作品4の実習と各自の課題	アテレコ作品4の実習の中で様々な役柄に挑戦します。沢山の役を経験して自分に何が足りないかを学びます。
第6回	アテレコ作品4の実習と各自の課題②	アテレコ作品4の実習を更に深く行い、各自の課題を明示します。 自己課題の克服、スキルアップについて
第7回	3Q末試験	アテレコ作品3の抜粋 アフレコ作品3の抜粋

クォーター末試験評価方法

- ①出席状況と受講態度で50%:出席数、遅刻・早退数、集中力、意欲等
 - ②クォーター末試験で50%:滑舌、画面チェック度、音声表現等
- * 授業内容は、男女比や進行状況によって変更する場合があります。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アフレコ作品4の実習と各自の課題	画面チェックを確実に進めます。 作品のテーマ、特徴、キャストの性格を正しく理解します。
第2回	アフレコ作品4の実習と各自の課題②	アフレコ作品4の2回目。想像力を豊かにします。 画面や台詞から、想像力を働かせて表現します。
第3回	アテレコ作品5の実習と各自の課題	アテレコ作品5で更に様々な役柄に挑戦します。 役の特徴を正しく掴み、大胆にチャレンジします。
第4回	アテレコ作品5の実習と各自の課題②	更に深く実習し、各自の課題を明確にします。 「ゆりかご」から「墓場」までどんな役にも挑戦してみます。
第5回	アフレコ作品5の実習と各自の課題	外画以上に様々な役柄があるアニメの世界を深く知ります。 擬人化についてしっかり学びます。
第6回	アフレコ作品5の実習と各自の課題②	台本と画面と創造力、そして好奇心を旺盛に。 現時点で何が出来る何が出来ないか、を認識します。
第7回	4Q末試験「アテレコ」	アテレコ作品5から抜粋
第8回	4Q末試験「アフレコ」	アフレコ作品5から抜粋

学期末試験評価方法

- ①出席状況と受講態度で50%:出席数、遅刻・早退数、集中力、意欲等
 - ②クォーター末試験で50%:滑舌、画面チェック度、音声表現等
- * 授業内容は、男女比や進行状況によって変更する場合があります。

声優学科

学期	科目名	担当講師
春	ナレーション I	小原雅一

科目概要

「ナレーション」というと、「はっきり」と「しっかり」と読むというこに重点があるように思われるかもしれませんが、もちろんそれらも大切ですが、「その作品の内容を理解」した上で「大きくて自由な表現が出来る」ということの方が大切だと考えています。いろいろな種類の作品に挑戦しながら、「大きくて自由な表現」を身につけていってもらえたらと思います。

到達目標

ナレーション特有の文章・言い回しにとらわれずに「大きくて自由な表現」が出来るよう、原稿をしっかりと読み、理解を深めていく。
いくつかの作品に触れていきながら、自分の「苦手なもの」「上手いかないところ」などをしっかりと把握・理解し、少しずつそれらを克服していく。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業内容の説明	これからの授業の流れを確認しながら、自己紹介などもしたいと思います。
第2回	素読みでのナレーション	映像は使わず、原稿のみでのナレーションです。少しずつナレーションの文章に慣れていきましょう。
第3回	素読みでのナレーション・2	前日に引き続き、原稿のみでのナレーションです。前回の授業を踏まえ、より深い理解・より大きくて自由な表現を目指しましょう。
第4回	番組のナレーション	映像を使つてのナレーションです。映像に合わせて読むナレーションに慣れていきましょう。
第5回	番組のナレーション・2	映像のカット割、テロップなどの画像処理などがあることも意識しつつ、それらを活かしながら読んでみましょう。
第6回	試験前の練習	クォーター末試験に向け各自で練習をします。疑問や質問があれば遠慮なく聞いてください。
第7回	クォーター末試験	第1クォーターで学んだこと・身につけたものを存分に発揮して、失敗を恐れずに思い切って試験に臨みましょう。

クォーター末試験評価方法

ナレーションによる実技試験を行います。試験では「声量」「滑舌」「作品内容の理解」「表現の工夫」に重点を置いてみていきます。評価方法は、出席日数・授業態度などで50%。試験内容で50%です。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アニメーションを使つての表現	一度ナレーションを離れて、アニメを使つて「大きくて自由な表現」を探ってみます。
第2回	アニメーションを使つての表現・2	ナレーションとアニメでの表現方法の「違い」そして「共通点」を考えてみましょう。
第3回	キャラクターナレーション	キャラクターとしてのナレーションです。セリフの様なナレーションを通して「自由な表現」に近づいていきましょう。
第4回	キャラクターナレーション・2	前日に引き続きの内容で、「自由な」だけでなく「大きな」表現とはなにかを探っていきましょう。
第5回	ドキュメンタリー	ドキュメンタリーのナレーションおよびボイスオーバーです。より物語仕立てのナレーション、そしてボイスオーバーにも慣れていきましょう。
第6回	ドキュメンタリー・2	作品への理解を深め、より集中し、生きいきとしたナレーション・ボイスオーバーを目指しましょう。
第7回	試験前の練習	学期末試験に向け各自で練習をします。疑問や質問があれば遠慮なく聞いてください。
第8回	学期末試験	これまでの授業で学んできたことを、自分のなかでしっかりと消化して、思い切り試験に臨みましょう。

学期末試験評価方法

ナレーションによる実技試験を行います。前回の試験と同じく「声量」「滑舌」「作品内容の理解」「表現の工夫」に重点をおいてみていきます。評価方法は、より試験内容に重きを置き出席日数・授業態度などで40%。試験内容で60%です。

声優学科

学期	科目名	担当講師
秋	ナレーションⅡ	小原雅一

科目概要

春学期の授業でナレーションに対する心構えが少しずつ出来てきたかと思えます。これまでの授業で学んだことを踏まえつつ、より専門的な内容のナレーションにも挑戦していきます。難しい文章や言葉が多くなってきますが、それらに負けずに、よく「作品の内容を理解」し、さらに「大きくて自由な表現」を目指していきましょう。

到達目標

春学期で出来ていた以上の「大きくて自由な表現」ができるよう、自分の短所・弱点を一つでも多く克服し、長所をさらに伸ばしていく。
自分の読む作品の「伝えたいこと」をしっかりと受け止め、その思いを明確に表現できるようになるために、自ら作品に近づく努力ができるようになる。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バラエティ	バラエティ番組のナレーションです。勢いのある流れやテンポでのナレーションに触れてみましょう。
第2回	バラエティ・2	読みのリズムや間を活かしつつ、ふんだんにユーモアを織り交ぜてみましょう。
第3回	ビデオプロモーション	人・モノ・場所などを紹介する作品のナレーションです。落ち着いた雰囲気のある作品に取り組んでいきましょう。
第4回	ビデオプロモーション・2	落ち着いた作品の中でも遊び心をなくさずに、しっかりとメリハリの利いた作品づくりを心がけましょう。
第5回	ビデオプロモーション・3	前2回の授業を踏まえつつ別の作品にも挑戦して、表現の幅を広げてみましょう。
第6回	試験前の練習	クォーター末試験に向け各自で練習をします。疑問や質問があれば遠慮なく聞いてください。
第7回	クォーター末試験	これまで学び、体得してきたものを力の限り表現して、自信を持って試験に臨みましょう。

クォーター末試験評価方法

ナレーションによる実技試験を行います。これまでの試験と同じく「声量」「滑舌」「作品内容の理解」「表現の工夫」に重点を置いてみていきます。評価方法は、さらに試験内容に重きを置き出席日数・授業態度などで30%。試験内容で70%です。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	医療	言葉も内容も非常に難解な、医療用のナレーションです。特殊なナレーションにも触れてみましょう。
第2回	医療・2	難解な文章を、しっかりと読み込み内容を理解して、自ら作品に寄り添っていく努力をしてみましょう。
第3回	ドキュメンタリー(学問)	ドキュメンタリー番組のナレーションです。以前のものより多少、専門用語が多くなっています。
第4回	ドキュメンタリー(学問)・2	専門的な内容の作品でも、情感豊かに読めるように挑戦してみましょう。
第5回	商品紹介	商品取り扱い用のナレーションです。淡々とした雰囲気の中にも個性が出せるよう取り組んでみましょう。
第6回	商品紹介・2	文章のどのポイントを、どう活かせるか。全体の流れから言葉の端々にまで注意を払って、表現のためのヒントにしていきましょう。
第7回	試験前の練習	学期末試験に向け各自で練習をします。疑問や質問があれば遠慮なく聞いてください。
第8回	学期末試験	今まで得てきた全ての知識と技術を出し切って、全力で試験に臨んでください。

学期末試験評価方法

ナレーションによる実技試験を行います。これまでの試験と同じく「声量」「滑舌」「作品内容の理解」「表現の工夫」に重点を置いてみていきます。評価方法は、今まで以上に試験内容に重きを置き出席日数・授業態度などで20%。試験内容で80%です。

声優学科

学期	科目名	担当講師
春	ヴォーカルⅢ	高島みほ

科目概要

声優、俳優、歌手とは何かを学びながら、音楽の基礎を体を使って覚えます。しっかりした発声を学びつつ、ステージでの表現につながるように、一人ひとりの声を確かめていきます。

到達目標

すぐには上達しません。少しずつ確実に力がついていきます。あきらめずにトレーニングして、高い意識を持てるようにしましょう。自分にはどういったトレーニングが必要なのかを確認しましょう。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	自己紹介と目標の確認	一人ずつ目標をしっかり確認する作業。
第2回	歌ってみよう	ステージで好きな曲を1コーラス歌う。
第3回	発声のいろは①	無理をしない地声の出し方を試します。
第4回	発声のいろは②	裏声を使い、地声との違いを確認します。
第5回	ストレッチと声の関係性	身体を柔軟にすることで声の出し方を試します。
第6回	発声を意識した歌唱①	発声の後、一人ずつ発表しアドバイスを聞きます。
第7回	発声を意識した歌唱②	6回目でのアドバイスを確認後、発表。

クォーター末試験評価方法

授業態度や向上心を評価します。苦手な所にきちんと目を向け、改善しようとする気持ちが大事です。カラオケとは違う、きちんとしたプロの発声の違いを感じているかをみます。試験50%授業態度50%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1クォーター目の復習	7回目にやった曲でもう一度一人ずつ発表。
第2回	声の分析	楽しい、悲しい、うれしい、悔しい、苦しいなどの声の表現。
第3回	歌声の表情作り①	音にのせて声の表情を作る練習
第4回	歌声の表情作り②	息の量を調節し、繊細さを出す。
第5回	顔の表情作り	ライブパフォーマンスに役立つ表情を練習
第6回	3、4、5回目の総合表現	ステージ発表し、見ている人たちの意見を聞きます。
第7回	ステージ発表	6回目の発表を学習し、レベルアップを図ります。
第8回	テスト	ミニライブで点数をつけます。

学期末試験評価方法

曲の内容に沿って、声の表現が出来ているか、そして、ウィスパー、顔の表情がついているか、集中してステージを楽しんでいるをみます。個人差はありますが、努力しているかは一目でわかります。試験80%授業態度20%

声優学科

学期	科目名	担当講師
秋	ヴォーカルⅣ	高島みほ

科目概要

春学期にやった表現を思い出し、いよいよ歌いながら動いてみましょう。曲に合わせて自然に体が動かせるようになることを目標に、歌と動きの一体化を目指します。

到達目標

声優、俳優、歌手としての意識を高く持ち、個性を見出す事が出来るようになれば素晴らしいです。プロへの道は地道に技術を身につけて行く事です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	手の動きとクラップをしよう	跳ねている曲とそうでない曲の違いを体で覚えます。
第2回	歌いながら手を動かしてみよう	バラード曲での手の動き方を練習します。
第3回	足の動きとステップを踏もう	ランダムで曲をかけ、それに合わせてステップを踏みます。
第4回	歌いながらステップを踏もう	アップテンポの曲を歌いながらステップを踏みます。
第5回	マイクの使い方を試そう	マイクの距離感をつかみ、ステージで確認します。
第6回	スタンドマイクで歌う練習をしよう	ハンドマイクとの違いを感じ、ステージで歌います。
第7回	テスト	ハンドマイクで課題曲のステージを発表します。

クォーター末試験評価方法

3クォーターでやった手足を使う歌唱表現がしっかり実行できていたかをみます。それに伴い、歌がおろそかになっていないかも大きく評価しますので、いろんな所に気を配りパフォーマンスをしてください。試験70%授業態度30%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	合唱とハモリをやってみよう	課題曲配りパート分けして練習します。
第2回	ハモリをより正確にしよう	グループを作り、1グループずつ確認していきます。
第3回	ハモリをより美しくしよう	曲をより豊かなものにしていく作業です。
第4回	ライブの選曲とイメージ作りをしよう	ライブの選曲をし、歌詞を書き、そこに細かい表現を書き込みます。
第5回	ライブ練習を開始	声の表現と手足のパフォーマンスを全て盛り込んだ作品を作ります。
第6回	ライブの練習と衣装・メイク決め	衣装の案を提出しメイクと髪型のレクチャーを行います。
第7回	衣装で通し稽古	本番と同じ衣装、メイクで通し稽古をし、意見交換を行います。
第8回	ライブ(学期末試験)	今までの練習成果をライブパフォーマンスで発表します。

学期末試験評価方法

表情、目標、リズム感と歌の丁寧さを採点します。自分らしいパフォーマンスが出来たかが重要です。声優、俳優、歌手として、しっかりファンの気持ちをつかみ、堂々とステージで歌えることが出来るかを見ます。一年の総まとめですので、思いっきり楽しんでください。試験100%

声優学科

学期	科目名	担当講師
春	パントマイムⅢ	栗原一

科目概要

パントマイムにおける基本のテクニックを応用発展させ、更なる上級テクニックを習得します。

到達目標

習得したテクニックを駆使し、パントマイムの演技及び表現力を体得します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	身体能力の確認	現時点での体力を測定します。
第2回	パントマイムの身体動作の習得	固定点の確認 意識して止めます。
第3回	更なる身体動作の習得	身体表現「ひく、ひかれる」 体の動きを確認します。
第4回	身体動作の習得 体の感覚を確認しながら	身体表現「押す、押される」 体の感覚を身につけます。
第5回	身体動作の習得	固定点の強化
第6回	成果の確認	これまで学習した身体表現を披露します。
第7回	特別授業	ジャグリング

クォーター末試験評価方法

主席率と身体表現の的確性を評価します。
出席率:50%、テクニック:50%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	身体能力の確認	現時点での体力を測定します。
第2回	身体表現の応用 次第に高度な動きに移ります。	身体表現「乗り物」を表現してみます。
第3回	身体表現の応用	身体表現「動物」を表現してみます。
第4回	身体表現の応用	身体表現「仕事」の動作を表現してみます。
第5回	身体表現の応用	身体表現「日常」を的確に表現してみます。
第6回	身体表現の応用	身体表現「感情」様々な感覚を表現してみます。
第7回	テスト	これまで学習した身体表現を披露します。
第8回	特別授業	ジャグリング

学期末試験評価方法

出席率と身体表現の的確性を評価します。
出席率:50%、テクニック:50%

声優学科

学期	科目名	担当講師
秋	パントマイムⅣ	栗原一

科目概要

パントマイムの世界観を体現し、作品を通して表現力を深めます。

到達目標

自らのパントマイムオリジナル作品を創作します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	身体能力の確認	現時点での体力を測定します。
第2回	作品の振り写し	既成作品「朝」その1 日常の自分もよく振り返って観察します。
第3回	作品の振り写し	既成作品「朝」その2 前回は踏まえて、作品を仕上げます。
第4回	作品の振り写し	既成作品「つり」その1 リアルに表現できるようにします。
第5回	作品の振り写し	既成作品「つり」その2 前回は踏まえて、作品を完成させます。
第6回	成果の確認	既成作品を披露します。
第7回	特別授業	ジャグリング

クォーター末試験評価方法

出席率と作品における表現力を評価します。
出席率:50%、テクニック:50%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	身体能力の確認	現時点での体力を測定します。
第2回	作品創作その1	テーマに沿った作品を創作します。 全身を自由に使って表現します。
第3回	作品創作その2	テーマに沿った作品を創作します。 全ての感覚を先生に感じて行います。
第4回	作品創作その3	テーマに沿った作品を創作します。 自由に楽しんで行います。
第5回	作品創作その4	自らテーマを決め作品を創作します。 総集編
第6回	作品創作その5	自らテーマを決め作品を創作します。 総集編
第7回	テスト	オリジナル創作作品を発表します。
第8回	特別授業	ジャグリング

学期末試験評価方法

出席率と創作作品のオリジナルティ及び表現力を評価します。
出席率:50%、テクニック:50%

声優学科

学期	科目名	担当講師
春	日本舞踊 I	藤間 青娥

科目概要

日本舞踊を通じて、礼儀、作法、舞台マナー、着付、和服の立居振舞を学びます。古典芸能の動き、形、感情表現を身に付け舞台表現者として芸能全般の造詣を深めていきます。

到達目標

洗練された”和”を学び、心の豊かさを身に付けます。
 唯一無二の日本の文化、芸能に触れ、学び、感じ、多方面への活用、応用を考えます。
 古い物の中から新しさを発見し物事の見方、固定観念の払拭、またチャレンジできるメンタル面での強化を試みます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	着物とは 着物の扱い、着付けの基本を学びます。	着付け、帯結び、着物の畳み方を学び理解します。着物の成り立ちと構成、メンテナンスを学習します。
第2回	自分の体型にあった着方を学びます。	個々によって体型は違います。自分の体型に合った着方を見つけ手早く着られ動いても着崩れない着方を、基本を元に工夫します。
第3回	着物を着ての、 立ち居、振る舞いを学びます。	着物を着ての、歩き方、袂の使い方、裾さばき、美しく見える角度、等の着物での表現を学びます。
第4回	お扇子の扱いを学びます。	日本舞踊の代表的な小道具のお扇子の扱い、表現を学びます。小道具を使うにあたってのマナーも合わせて学びます。
第5回	基本練習曲を学びます。	日本舞踊の基本の動きが凝縮された練習曲を使って振りを覚え、学びます。正しく動けるよう気を付けます。
第6回	基本練習曲を学びます。	古典というものは、決まり、ルールの中に動きがあります。動きのパターンを早く理解するように努力します。
第7回	基本練習曲を学びます。	動きの中でどの様に自分が見えているか、見られているのか、的確に表現出来ているのか確認しながら進んでいきます。

クォーター末試験評価方法

無意識な行動はありません。指先、足先、目線に神経を集中出来ているか、同じ内容の注意を何回も受けていないか、授業毎にステップアップ出来ているかを評価します。個々で授業の内容に目的が造れているかも評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	小品曲を学んでいきます。	基本練習曲で学んだ動きを元に、振りに表現と表情、感情を織り交ぜていきます。
第2回	小品曲を学んでいきます。	ダイナミックに動くのも大切ですが、決まりの枠の中からはみ出していないか調整していきます。
第3回	小品曲を学んでいきます。	振りに追われないように、先んじて頭の中で振りを整理しましょう。次に何をすべきかも確認します。
第4回	小品曲を学んでいきます。	基本的な表現、喜怒哀楽を考えます。振りに活かせるよう各自で工夫してみましょう。
第5回	小品曲を学んでいきます。	自己中心の表現になっていませんか？友達とお互いに自分の振りを見てもらい評価してもらいましょう。
第6回	小品曲を学んでいきます。	改めて自分を見つめ直していきましょう。自分の癖も自覚する事が大切です。癖と個性は別物です。
第7回	小品曲を学んでいきます。	舞台上がる表現者は、兎にも角にも好感度を上げましょう。悪役を演じてても好感度の持てるパフォーマーを目指します。
第8回	学んで来た事を発表します。	全体で学んできましたが、個々で今までの成果を見てもらいましょう。感じた事を発表します。

学期末試験評価方法

- ◆ 忘れ物はしていないか
- ◆ 授業に関係のない私語をしていないか
- ◆ 着替えた衣服や荷物は綺麗にまとめてますか
- ◆ 授業中に髪や顔、スマホなど無意識に触っていませんか

声優学科

学期	科目名	担当講師
秋	日本舞踊Ⅱ	藤間 青娥

科目概要

日本舞踊を通じて、礼儀、作法、舞台マナー、着付、和服の立居振舞を学びます。古典芸能の動き、形、感情表現を身に付け舞台表現者として芸能全般の造詣を深めていきます。

到達目標

古典芸能の基本の身体の使い方と体幹の強化を図り、いぶし銀の世界観に触れる事により、より深みのある人間性を身に付けます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	今まで学んできた事の確認をします。	授業の折り返し地点になります。今まで学んで来た事を振り返ってみます。
第2回	今まで学んできた事の確認をします。	再度、着物の着付け、帯結びを確認します。おろそかになっていた部分がないか見直していきます。
第3回	舞台での自分の立ち位置を学びます。	舞台上がった時の身体の置き方を学びます。客席と舞台の距離感を理解していきます。
第4回	舞台での自分の立ち位置を学びます。	動きが小さくならないよう、ダイナミックな表現と舞台での目線、身体の動き、客席に伝わる表現を学びます。
第5回	舞台での自分の立ち位置を学びます。	舞台での登退場も大事です。又、舞台上がる心構えを学んでいきます。
第6回	舞台での自分の立ち位置を学びます。	舞台裏での行動も大切です。楽屋でのマナー、舞台にかかわりサポートしてくれる方々へのリスペクトを持ちましょう。
第7回	舞台での自分の立ち位置を学びます。	舞台で学んできた動き、表現の仕方の確認をします。各自舞台上がる責任と喜びを理解します。

クォーター末試験評価方法

- ◆ 春学期で学んで来た事が応用出来ているか
 - ◆ 舞台でのマナーが理解できているか
 - ◆ 責任感が持てているか
- 以上の点を含めて評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	本格的な古典曲を学んでいきます。	今まで学んできた練習曲とは違い、古典曲に触れ、より古典芸能の深さを学んでいきます。
第2回	本格的な古典曲を学んでいきます。	古典曲のリズム、テンポを感じましょう。音に慣れることが大切です。
第3回	本格的な古典曲を学んでいきます。	振りを丁寧に覚えていきます。一手、一手、大切に繊細に表現を学んでいきます。
第4回	本格的な古典曲を学んでいきます。	歌詞も理解が必要です。歌詞の意味が振りの表現にもつながっている事を理解していきます。
第5回	本格的な古典曲を学んでいきます。	動きに緩急強弱を付けます。メリハリのある踊りをしましょう。動く時は動く、止まる時は止まる、身体に覚えこませます。
第6回	本格的な古典曲を学んでいきます。	表現豊かにしましょう。見ている人が楽しくなるような表現を学びます。
第7回	本格的な古典曲を学んでいきます。	期末試験に向け指先、身体の使い方など細かい部分の修正をします。
第8回	古典曲を発表します。	今まで学んで来た曲を踊ります。仕上がり具合を評価します。

学期末試験評価方法

- ◆ 一年間学んで来た事が反映されているか
- ◆ 健康管理は出来ていますか。一年間の出欠状況も評価します。
- ◆ 各自で授業に遅れを感じた場合、改善や確認、質問などで解決出来ているか
- ◆ 意欲を持って授業に挑めているか

声優学科

学期	科目名	担当講師
春	ジャズダンスⅢ	毛利あゆみ

科目概要

一年次の通年で習得したテクニックにバリエーションを与え、更に作品のコンセプトに合う表現力・個性・テクニックをバランスよく身につけます。

到達目標

ウォームアップ・アイソレーションなどを通じて、どこまで自分の身体を思い通りに動かす事が出来るか。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ウォームアップ・ストレッチ・筋力アップ	身体の様々な部分を動かし、その方法を学びます。
第2回	スタンス&バランス	ダンスをするために必要な基本姿勢、重心の置き方を学びます
第3回	アイソレーション&リズム	身体の各部分でリズムを取り、その方法を学びます。
第4回	アイソレーション&ステップ	身体の各部分でリズムを取り、感じ、表現します。
第5回	ステップ&リズム	ステップとリズムの組み合わせをトレーニング。
第6回	総合	全行程のまとめスキルアップ。
第7回	期末試験	振付作品を踊ります。

クォーター末試験評価方法

様々なステップを応用し、柔軟性とテクニックが身についているか。自己表現出来ているかをチェックします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	スタンス&バランス	軸の取り方、重心移動を更に強化します。
第2回	アイソレーション&リズム	身体の各部分でリズムを取り、更にリズムを細かくとります。
第3回	アイソレーション&リズム	アイソレーションとリズムの応用。
第4回	ステップ&ターン	重心移動を更に強化します。
第5回	ステップ&ターン	ステップとターンの応用
第6回	表現とレベルアップ	表現の応用とスキル
第7回	総合	最終確認。
第8回	期末試験	振付作品を踊ります。

学期末試験評価方法

テクニックにおいて、スタンス・バランスを正確に保ち、身体がしっかり使えているか。音を感じて身体をコントロールし、振付にあった表現が出来ているかをチェックします。

声優学科

学期	科目名	担当講師
秋	ジャズダンスⅣ	毛利あゆみ

科目概要

イベント(ダンス発表)に向けて、作品創りをしていきます。作品を踊るために必要な表現力・個性・テクニックを更に強化します。

到達目標

基礎・テクニック・表現力が自分のものとして最大限に活かされ「作品を創り上げる」という意識を持って自己アピール出来るか。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品振付	作品のテーマ・コンセプト・曲通じてイメージを明確にします。
第2回	作品振付	振付をしていきます。振付を正確に覚えます。
第3回	作品振付	振付をしていきます。何度も繰り返し、確実なものにします。
第4回	作品振付	振付をしていきます。テクニック・表現力を強化します
第5回	作品固め	振付を完全に覚えた状態から、よりテクニックを高めるように踊り込みます。
第6回	作品固め	トータルの完成度を上げます。
第7回	期末試験	振付作品を踊ります。

クォーター末試験評価方法

テクニック・表現力がバランスよく出来ていて、自己アピールと共に「見せる」意識が十分に発揮しているかをチェックします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎の強化	身体を自由に動かし、コントロールする能力を更に強化します。
第2回	テクニックと表現の強化	様々なステップと重心移動の強化。
第3回	テクニックと表現の強化	身体のコントロールと想像力を形にするトレーニング。
第4回	テクニックと表現の強化	身体のコントロールと想像力を形にするトレーニング。
第5回	表現の応用とレベルアップ	表現の応用
第6回	表現の応用とレベルアップ	表現の応用
第7回	総合	最終確認。
第8回	期末試験	振付作品を踊ります。

学期末試験評価方法

2年間で習得した基礎・テクニック・表現力が身についているか。作品を通して個々のレベルアップと自己表現が出来ているか。それらをポイントに総合力を評価します。

声優学科 共通

学期	科目名	担当講師
春	ヒップホップⅢ	小澤啓夢

科目概要

1年生の時に学んだ事を再確認していきます。常に体全体でリズムを取る事を努力していき、動きに流れを作っていきます。また、「ヒップホップジャズ」も学んでいきジャンルの幅を広げていきます。ヒップホップの踊り方と違う事を理解しながら学んでいきます。

到達目標

純粋なレベルアップを目標とします。ヒップホップは得意だけどジャズは苦手、逆にヒップホップは苦手だけどジャズは得意、という事がなくなるようにそれぞれの特性をしっかりと掴み、踊りの幅を広げてジャンルにとらわれる事のないフレキシブルなダンサー像を作っていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リズムトレーニング	2年生になっても基本的なところから見直していきます。リズムトレーニングをしっかりと行い基礎能力の向上をしていきます。
第2回	表現の確認	手、足の処理を中心に表現の仕方を確認していきます。流れが切れてしまう事なく動けるようにしていきます。
第3回	ステップ練習	上半身、下半身のバランスを考えて正確にステップを踏んでいきます。大きく動いても暴れて見えないようにしていきます。
第4回	コンビネーション①	いかに早く、正確に与えられた振付の意図を理解して覚える力をつけていきます。
第5回	コンビネーション②	コンビネーションを覚えたら流れが止まることなく、綺麗な動き、綺麗なダンスを意識して表現できるようにしていきます。
第6回	コンビネーション③	手、腕、肩、首の傾き、顔の角度など一つ一つを大事にし尚且つ大きく踊る為はどうするか研究していきます。
第7回	発表(クォーター末試験)	コンビネーションを覚えて発表をします。基礎能力が上がっているかの確認もしていきます。

クォーター末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。
振付に対する正確さをポイントとして見ていきます。また、ダイナミックに踊る事が出来ているか、音楽をしっかりと聴いて踊っているか、などコンビネーション全体を評価の対象として見ていきます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	HIPHOP JAZZについて	アーティストのバックダンサーがよく踊っているジャンルです。HIPHOPとの違いを知って踊り分けをしていきます。
第2回	イントロダクション①	体の使い方を覚えていきます。基本的には一緒ですがジャズの要素も入ってきます。
第3回	イントロダクション②	表現方法を覚えていきます。JAZZの要素を取り入れて繊細に踊ることを心掛けていきます。
第4回	イントロダクション③	アクセントの取り方を覚えていきます。HIPHOPの取り方とは違うの使い分けが出来るようにしていきます。
第5回	コンビネーション①	HIPHOP JAZZの振り付けを覚える力をつけていきます。ただ覚えるのではなく特徴を掴む事が大切です。
第6回	コンビネーション②	コンビネーションを覚えたらHIPHOPかJAZZのどちらかに偏った踊り方にならないように気をつけます。
第7回	コンビネーション③	音に対するアプローチや曲のイメージ、感情表現も考えながら踊っていきます。もちろんジャンルも考えながらです。
第8回	試験(学期末試験)	コンビネーションを覚えて発表をします。HIPHOP JAZZの特性を理解して表現していきます。

学期末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。
「HIPHOP JAZZ」の踊り方を理解してHIPHOPとの違いを表現できているかをポイントとします。振付を正確に取り、曲の表現や振付の意図を理解しているかもポイントとします。

声優学科 共通

学期	科目名	担当講師
秋	ヒップホップⅣ	小澤啓夢

科目概要

3クォーターはパントマイムにも似たダンスジャンル「アニメーション」を覚えていきます。4クォーターでは2年間のまとめとして色々なダンスを踊れる体作りを継続し、体の使い方、振りの覚え方、表現の仕方など、全てにおいてバランスよくレベルアップをしていきます。

到達目標

細かいところまで自分の動きを確認していき無駄な動きが無く、尚且つオリジナリティのあるダンスを出来るようになっていきます。ヒップホップの中でも色々なジャンルがありますがその中で自分が1番好きなダンスを見つけられるようにしていきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アニメーションについて	アニメーションとは何かを知っていきます。色々な映画やテレビをみてキャラクターを知る事も勉強です。
第2回	イントロダクション①	体の使い方を覚えます。パントマイムにも似た動きが多いですがダンスなのでリズム感を忘れずにしていきます。
第3回	イントロダクション②	自分がそのキャラクターになりきり動きを研究していきます。非現実的な動きを恥ずかしがらずに表現していきます。
第4回	イントロダクション③	アイソレーションをしっかりと使い表現の幅を広げていきます。また、体の角度、形も大事になってくるので気をつけていきます。
第5回	コンビネーション①	振付の意図を理解して自分よがりのダンスにならないように意識して振付者の伝えたい表現を出来るようにしていきます。
第6回	コンビネーション②	体の部分部分、全ての箇所神経を行き渡らせ全身で踊るようにしていきます。大きく踊ることと雑に踊ることの違いがわかるようにしていきます。
第7回	発表(クォーター末試験)	コンビネーションを覚えて発表します。全身を使って振付を覚えて細かいところまで見落とさないようにします。

クォーター末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。「アニメーション」を理解して体の使い方、筋肉の使い方、表現の仕方、振付の意図を理解しているかをポイントとします。もちろんアニメーションもダンスなのでリズムもしっかりと取れているかもポイントとしていきます。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リズムトレーニング・応用	今一度自分のリズム取りの見直しをしてトレーニングをしっかりと行い基礎能力の向上と応用を覚えます。
第2回	表現の確認・応用	表現の仕方を確認していきます。制限を設けても自分で与えられた表現を出せるか研究していきます。
第3回	ステップ練習・応用	1年生からここまでに習ってきたステップの確認とそこからのバリエーションを研究していきます。正確なリズムも考えながら行っていきます。
第4回	コンビネーション①	どのようにすれば振付を覚えるスピードを上げられるか覚え方の工夫を考えて振り取りに臨みます。
第5回	コンビネーション②	振付の意図を理解して自分よがりのダンスにならないように意識して振付者の伝えたい表現を出来るようにしていきます。
第6回	コンビネーション③	体の部分部分、全ての箇所神経を行き渡らせ全身で踊るようにしていきます。大きく踊ることと雑に踊ることの違いがわかるようにしていきます。
第7回	まとめ	2年間のまとめとしてここまでに習ってきた事、学んだ事を理解しているかの確認を行い、振付を踊ります。
第8回	発表(学期末試験)	最後の振付を覚えて発表をします。1番最後なので悔いのないように出し切るようにしていきます。

学期末試験評価方法

出席30%、試験50%、平常点20%とします。2年間で学んできた全ての事を理解して実力として反映できているかをポイントとしていきます。作品の完成度を上げていく努力を行っていたかもポイントとします。最後なので全力で踊る事がよい評価にも繋がっていきます。